

産地戦略

実施期間 令和5～7年度

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 全域
対象品目 イチジク



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

県内のイチジク産地では、長年の肥培管理によりリン酸、カリが過剰に蓄積した園が多く見られる。そして、最近の世界情勢の影響により肥料価格が高騰しており、肥料コストの低減が求められおり、現地においても栽培特性に合わせた施肥量削減が求められている。

イチジクについては、基肥で令和4年度までにN-P-K（8-2-2）のイチジク配合肥料（以下L型肥料）の現地適応性を検討し、県内主力産地である西三河地域を中心にL型肥料が普及・導入されつつある。それにより、リン酸・カリ成分で30%の削減ができ、施肥量も40kg/10a削減ができ施肥の省力化、生産資材コストの低減につながっている。さらなる省力化のため基肥＋追肥（5～10回）の施肥体系から年1回施肥による施肥の省力化を図る。そして、現行のいちじくワンタッチN-P-K（14-7-7）を改良したN-P-K（20-5-10）の有機入いちじくワンタッチ（改）（以下V型いちじくワンタッチ）によるリン酸の削減効果、新しい施肥技術による、果実品質、収穫量への影響を確認し、県内産地への導入について検討する。

省力化に資する技術としてせん定作業の省力化・軽労化を目指す。通常、2,000本/10a程度の結果枝のせん定にせん定鋸を使っているが、ハンディソーやレシプロソー（電動のこぎり）等の活用により作用時間の短縮等を検証する。

現在の栽培体系及びグリーンな栽培体系

栽培マニュアルに記載のとおり

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R4	目標R10年	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	119	▶ 20	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0	▶ 10	慣行・年1回肥料→V型肥料への切り替え
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0	▶ 10	慣行・年1回肥料→V型肥料への切り替え
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	「基肥＋追肥」体系 → 年1回施肥
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0	▶ 5	ハンディソー等によるせん定作業の軽労化

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	慣行・イチジクワンタッチ	▶ V型イチジクワンタッチ	化学肥料（リン酸）の49%削減 プラスチック被覆肥料の投入量0.21kg/10a削減
省力	慣行・イチジク有機配合＋追肥	▶ V型イチジクワンタッチ	施肥回数 6 ～10回から 1 回
省力	せん定鋸によるせん定作業	▶ ハンディーソーによるせん定作業	10a当たりのせん定時間47%削減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料の使用量の低減（対現行年 1 回施肥）	10	▶ 5	リン酸：9.8kg/10a → 5.0kg/10aに削減
環境 省力	化学肥料の使用量の低減（対配合＋追肥型）	10	▶ 5	リン酸：13.4kg/10a → 5.0kg/10aに削減
環境 省力	化学肥料の使用量の低減（対配合＋追肥型）	10	▶ 5	施肥回数 最大11回 → 1 回に削減
省力	ハンディーソーによるせん定作業	10	▶ 5	せん定鋸 → ハンディーソー 18.8%作業時間が短縮

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県内JA及び愛知県果樹振興会いちじく部会で開催する研究会などを通じて、グリーンな栽培体系加速化事業でえられた情報を提供して、技術の普及と定着を目指す。情報提供や技術指導にあたっては、本事業で作成した栽培マニュアルを活用する。

関係者の役割

関係者名	愛知県	県内JA	愛知県果樹振興会いちじく部会
役割	・V型肥料活用に向けた栽培指導 ・ハンディーソー等の利用によるせん定作業の軽労化に向けた情報発信	栽培指導、研究会で情報提供	研究会による情報提供

その他